

市内遺跡 2018

平成 30 年度小諸市内遺跡発掘調査報告書

2023. 3

小諸市教育委員会






例 言

- 1 本書は長野県小諸市に所在する埋蔵文化財包蔵地内で平成 30 年度に実施した、各種開発事業を原因とする発掘調査報告書である。
- 2 調査は国宝重要文化財等保存整備費補助金を受けて小諸市教育委員会事務局生涯学習課が実施した。
- 3 調査にかかる組織は次のとおりである。

教育長	小林 秀夫			
教育次長	平井 義人			
生涯学習課長	安藤 貴正			
生涯学習係長	鈴木 一枝			
生涯学習係	高橋 陽一	山東 丈洋	高見澤 菜乃	
調査作業員	星野 保彦	大和田 誠	後藤 元良	後藤 暁子
	伊藤 登造	飯田 喜美江		
- 4 調査は高橋陽一（生涯学習課文化財保護担当）が担当した。
- 5 本書の執筆・編集は高橋陽一、井出勇介が実施した。
- 6 遺物の実測図化は、株式会社アルカに委託した。
- 7 調査に関する資料は、小諸市教育委員会の責任下に保管している。
- 8 調査にあたり、長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課、長野県埋蔵文化財センター櫻井秀雄氏からご指導、ご助言を頂いた。また、施工主や地域の方々には日程調整や発掘調査の承諾等でご協力を頂いた。記して深く感謝する次第である。

凡 例

- 1 挿図中の略記号は、Tr=トレンチ、SB=住居址、SK=土坑を表す。
- 2 挿図中におけるスクリーントーンは下記のとおりである。

遺構		: 住居址 (SB)		: 土坑 (SK)		: 焼土・炭化物
遺物		: 須恵器断面		: 黒色処理		
- 3 土層の色調は、『新版 標準土色帖』（1990 年版）に準拠している。

目 次

調査遺跡位置表示	1
宮ノ反A遺跡群釜神遺跡	2
加増遺跡	6
宮ノ反A遺跡群①	7
宮ノ反A遺跡群②	8
宮ノ反A遺跡群③	10
三子塚遺跡群①	11
三子塚遺跡群②	12
舟窪遺跡	13
深沢遺跡群	14
谷地原遺跡群①	15
谷地原遺跡群②	16
谷地原遺跡群③	17
谷地原遺跡群④	18
谷地原遺跡群⑤	19
和田原遺跡群	20
東丸山遺跡	22
柏木原遺跡群①	23
柏木原遺跡群②	24

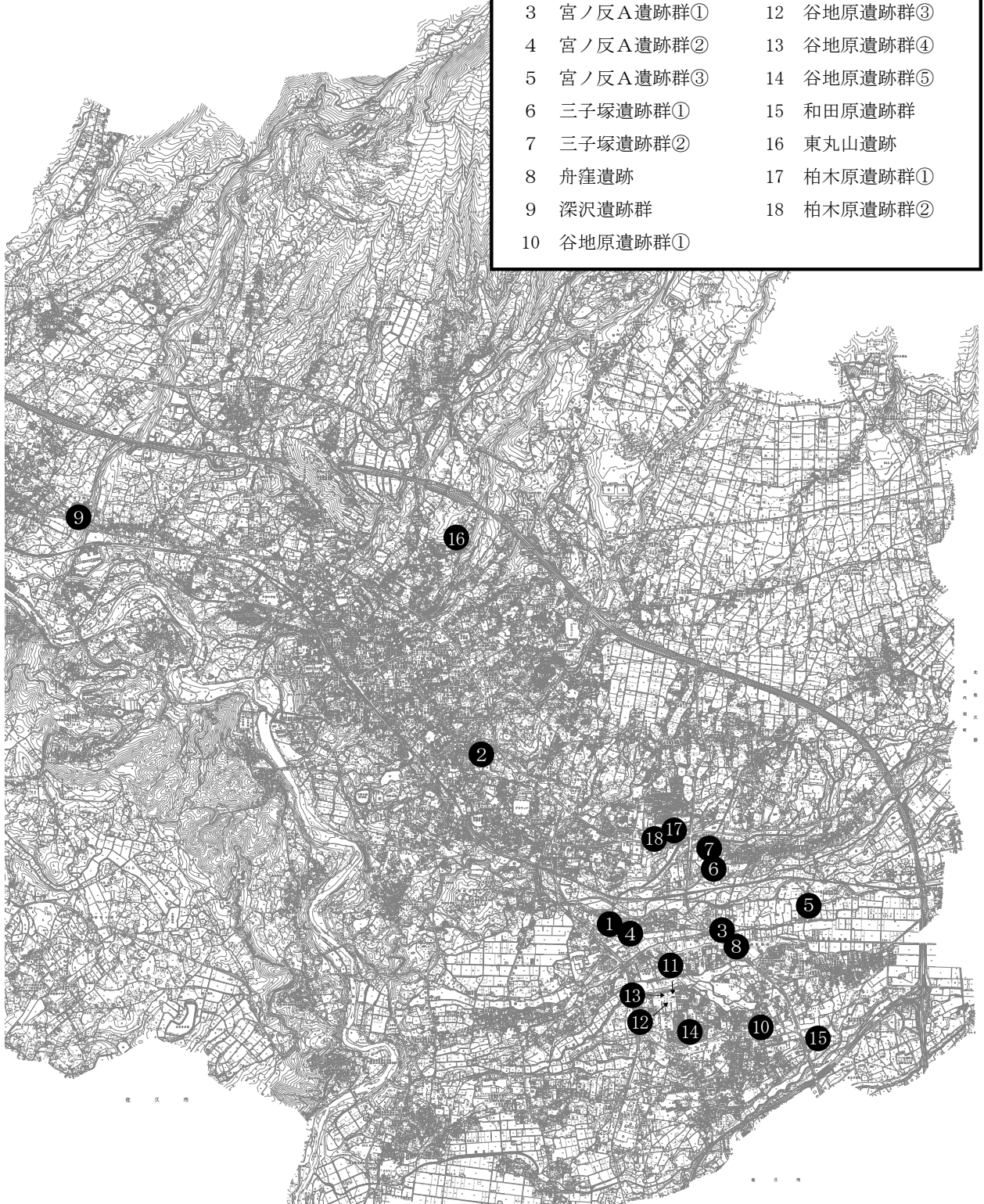
調査遺跡位置表示 1 : 50,000

本調査

- 1 宮ノ反A遺跡群釜神遺跡

試掘調査

- | | |
|------------|------------|
| 2 加増遺跡 | 11 谷地原遺跡群② |
| 3 宮ノ反A遺跡群① | 12 谷地原遺跡群③ |
| 4 宮ノ反A遺跡群② | 13 谷地原遺跡群④ |
| 5 宮ノ反A遺跡群③ | 14 谷地原遺跡群⑤ |
| 6 三子塚遺跡群① | 15 和田原遺跡群 |
| 7 三子塚遺跡群② | 16 東丸山遺跡 |
| 8 舟窪遺跡 | 17 柏木原遺跡群① |
| 9 深沢遺跡群 | 18 柏木原遺跡群② |
| 10 谷地原遺跡群① | |



本調査

宮ノ反A遺跡群釜神遺跡

所在地 小諸市大字御影新田 1555-10

事業概要 個人住宅建設

開発者 個人

調査期間 平成30年7月24日、
8月22日～9月3日

調査面積 54 m²

検出遺構 竪穴住居址2軒、土坑1基

出土遺物 土師器杯、甕、高台付須恵器杯、灰釉陶器

調査所見

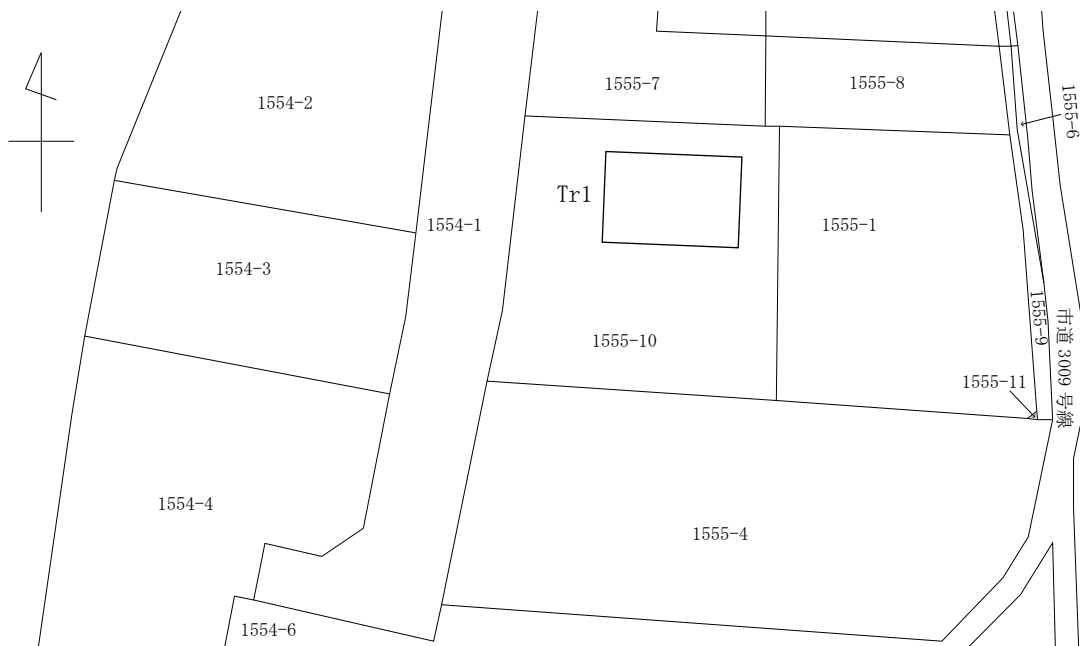
住宅基礎が総掘りにより施工されるため建物の設置範囲を調査対象とし、7月24日に試掘を実施する。基礎根掘りの計画に合わせ、現況GLより60cmまでの深さで検出される遺構について、調査対象とする。表土はプラン確認に支障をきたすほど、廃材等を埋めた攪乱が著しい状況であったが、住居址と思われるプランを確認。開発行為者と協議し、本調査を実施した。

当初は1軒と思われていたが2軒が上下に重なる住居で、遺物より上が平安時代、下が奈良時代の帰属と判断した。平安時代の住居は石組のカマドをもち、カマド手前で灰釉陶器が出土した。床面は脆弱で掘方と思われる層を除去したところ、奈良時代の高台付須恵器が発見されたので、奈良時代の住居址のプランと判断した。

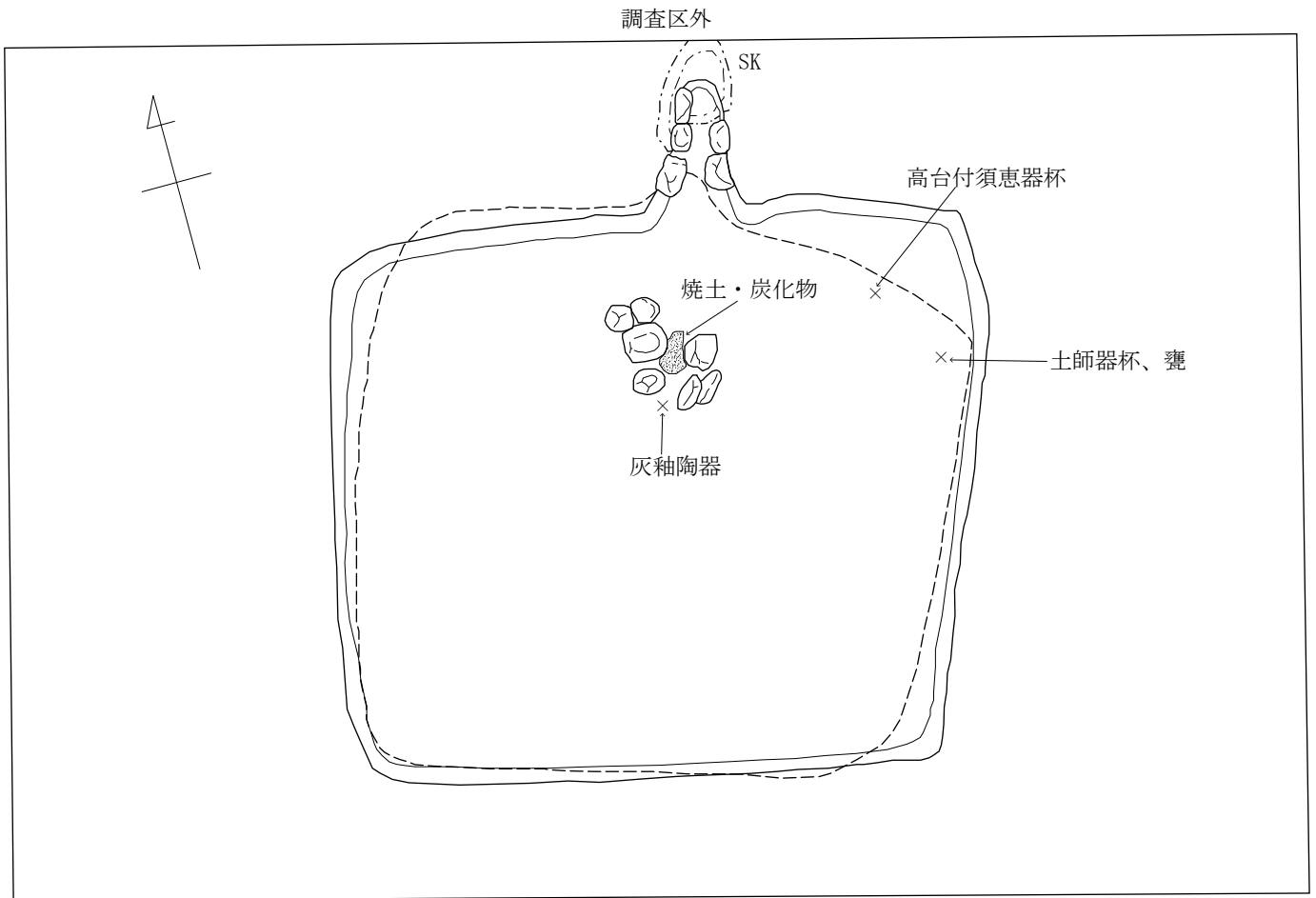
土坑は、平安時代の住居址カマドに切られている。



位置図 1:10,000



全体図 1:500



平面図 1 : 50

- : 平安期住居
- : 奈良期住居
- : 土坑



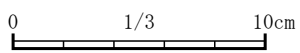
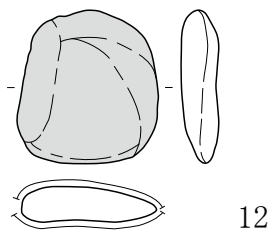
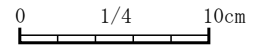
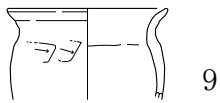
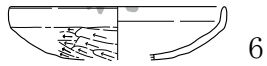
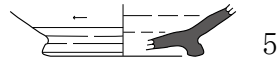
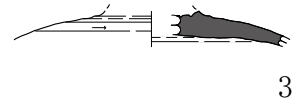
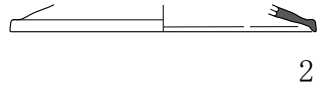
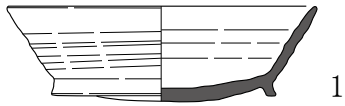
調査作業遠景 (南西より)



平安時代の石組カマド



調査完了全景 (南より)



出土遺物 実測図



1



2



3



4



5



6



7



8



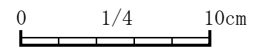
9



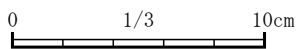
10



11



12



出土遺物 縮小写真集合図

試掘調査

加増遺跡

所在地 小諸市加増二丁目 45-1 先

事業概要 道路拡幅

開発者 小諸市

調査期間 平成 31 年 3 月 25 日

調査面積 4.2 m²

検出遺構 なし

出土遺物 なし

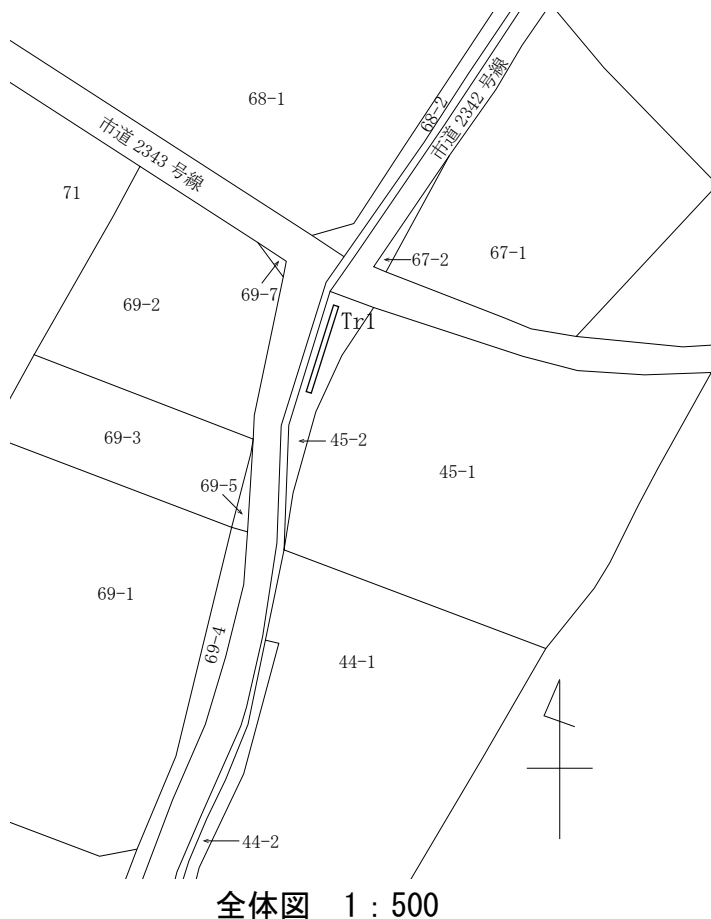


位置図 1:10,000

調査所見

道路拡幅工事に伴い試掘調査を実施する。今期で拡幅されるのは約 1.5m × 7 m 程度であるので、掘削するトレンチは 1 本で対応した。計画深度である 90cm まで掘り進めたところ、浅間軽石流堆積層を検出。谷に近く水が流れやすい場所のせいか、粘土質であった。土層は 1 層でもともと小屋があった場所ということもあり、除却した際に搬出しなかった建築資材が埋まっていた。

浅間軽石流堆積層の頂部を遺構確認面に設定し精査したが遺構、遺物は確認されなかった。



全体図 1:500



トレンチ (北壁から底部)



トレンチ (掘削深度)

試掘調査

宮ノ反A遺跡群①

所在地 小諸市大字御影新田 1747-8

事業概要 個人住宅建設

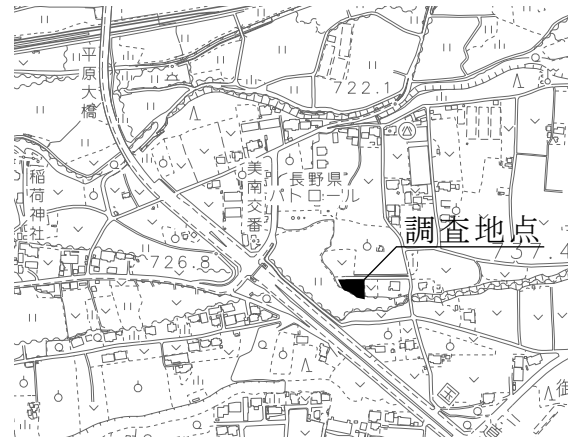
開発者 個人

調査期間 平成30年5月31日

調査面積 10 m²

検出遺構 なし

出土遺物 なし



位置図 1:10,000

調査所見

合併浄化槽および浄化槽につながる配管トレンチを対象に試掘調査を実施する。調査には重機を用いた。現況地表面よりトレンチ1では1m下、トレンチ2では70cm下で浅間軽石流堆積層が検出され、本層上で遺構確認作業を実施したが、遺構、遺物は確認できなかった。

なお、当該地籍は過去に舗装工が施されていたようで、現況地表面より40cm程度下までは路盤を除去した痕跡が確認され、アスファルト片が埋まっていた。



トレンチ1 (南より)



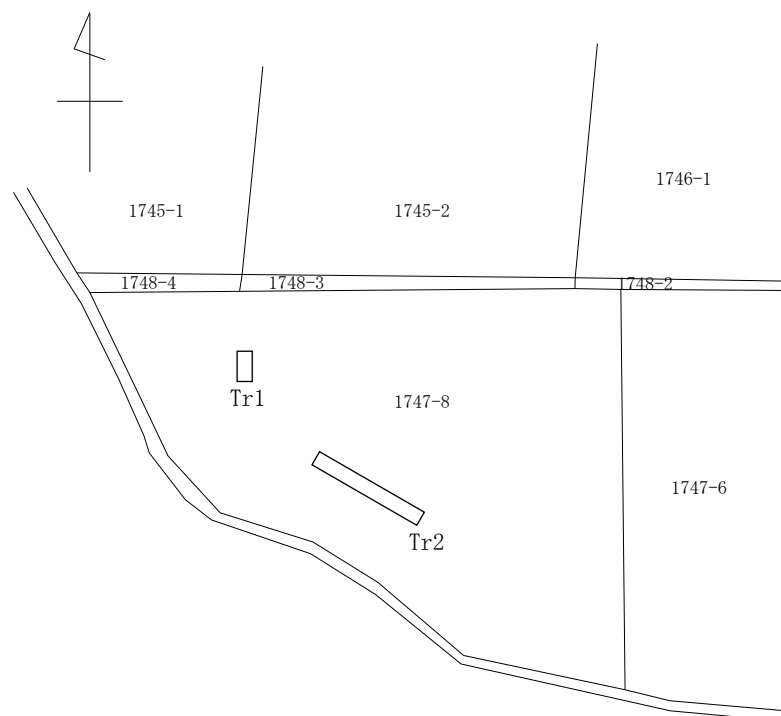
トレンチ1北壁断面



トレンチ2 (東より)



トレンチ2西壁断面



全体図 1:500

試掘調査

宮ノ反A遺跡群②

所在地 小諸市大字御影新田 1629-6 ほか 12 筆

事業概要 道路拡幅

開発者 佐久建設事務所

調査期間 平成 30 年 5 月 10 日、5 月 30 日

調査面積 41.5 m²

検出遺構 竪穴住居址 2 軒、土坑 12 基

出土遺物 土師器、須恵器

調査所見

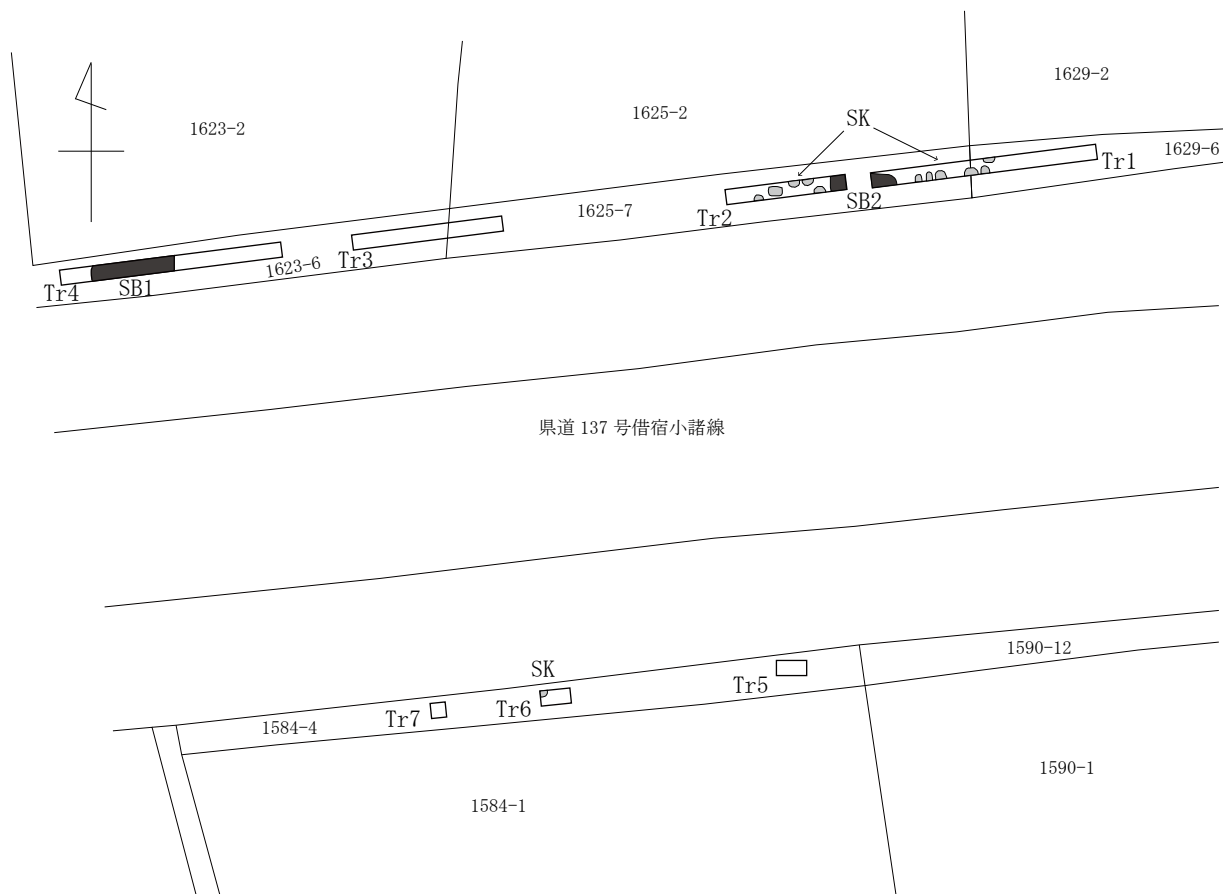
道路拡幅範囲を対象に試掘調査を実施。調査には重機を用いたが、一部重機の進入が困難な場所については人力により掘り下げた。

浅間軽石流堆積層の上面で遺構を確認した。確認した遺構は竪穴住居址が 2 軒と土坑 12 基で、トレンチ 5 では包含層を確認しており、何らかの遺構があると思われる。

全体的に起伏がある地形で、遺構確認面まではトレンチ 1 の東壁で 80cm、トレンチ 2 東壁で 55cm、トレンチ 3、4 で 45cm、トレンチ 5、6、7 が 50cm である。



位置図 1:10,000



全体図 1:500



トレンチ1 (西より)



トレンチ1 東壁断面



トレンチ2 (東より)



トレンチ4 (西より)



トレンチ5



トレンチ6

(写真左が土坑、右はサブトレンチ)

試掘調査

宮ノ反A遺跡群③

所在地 小諸市大字御影新田 1327-16 先

事業概要 道路拡幅

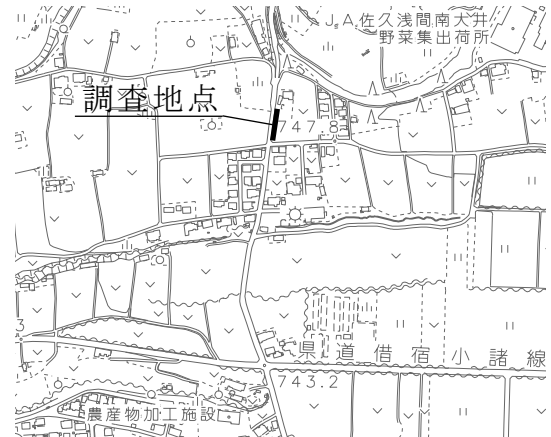
開発者 小諸市

調査期間 平成 31 年 1 月 24 日

調査面積 19.2 m²

検出遺構 土坑 2 基、自然流路 2 本

出土遺物 土師器、須恵器



位置図 1:10,000

調査所見

道路拡幅計画に合わせて新規で削られることになる畑地を対象に試掘調査を実施する。遺構確認面までの深さは現況 GL より 20cm 程度。土坑と思われるプランが 2 基と自然流路が検出された。流路の堆積土内及びその周囲で土器の小破片が出土した。土器の割口に摩耗が認められたため流されてきたものと推測される。



全体図 1:500

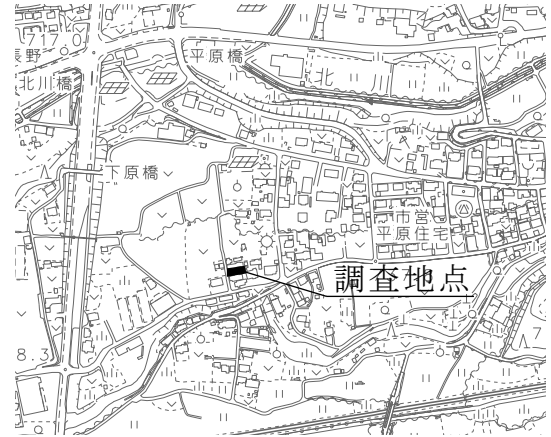


トレンチ 1 (北より)

試掘調査

三子塚遺跡群①

所在地 小諸市大字平原 675-2
事業概要 個人住宅建設
開発者 個人
調査期間 平成 30 年 5 月 22 日、9 月 26 日
調査面積 41.8 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし

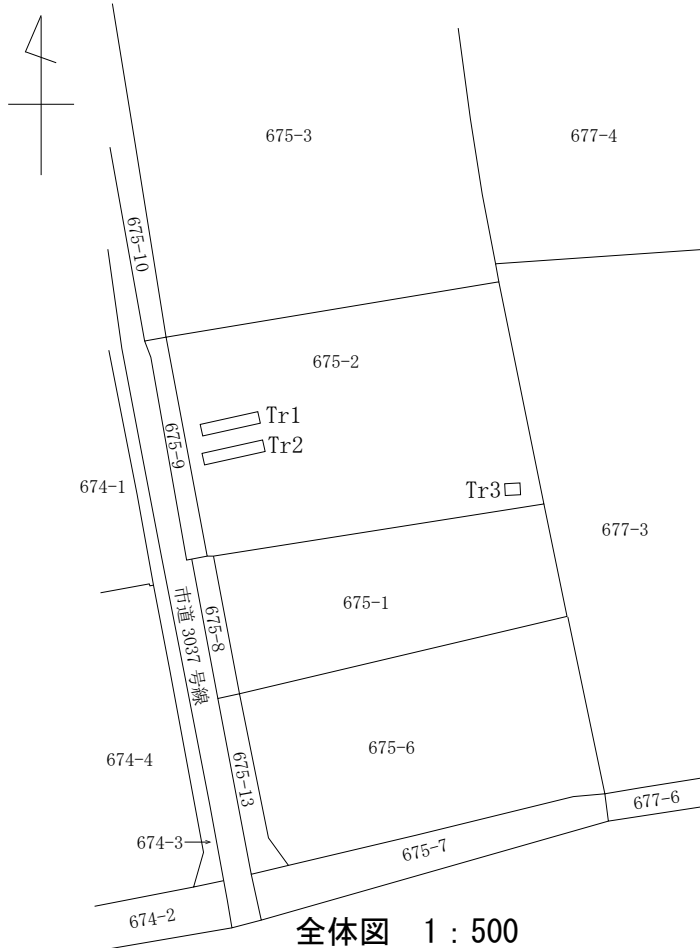


位置図 1:10,000

調査所見

工事の進捗に合わせて、5月22日にスロープ部分、9月26日に貯水槽設置部分を対象にトレンチを設定し、重機により掘り下げた。現況地表面より60cmから70cm下で浅間軽石流の層に到達。本層上面で遺構の確認を行ったが、遺構は検出されなかった。

過去に擁壁工といった造成工事により攪乱を受けている。



全体図 1:500



調査対象地籍 (東より)



トレンチ1 擁壁抜き取り痕跡



合併浄化槽トレンチ

試掘調査

三子塚遺跡群②

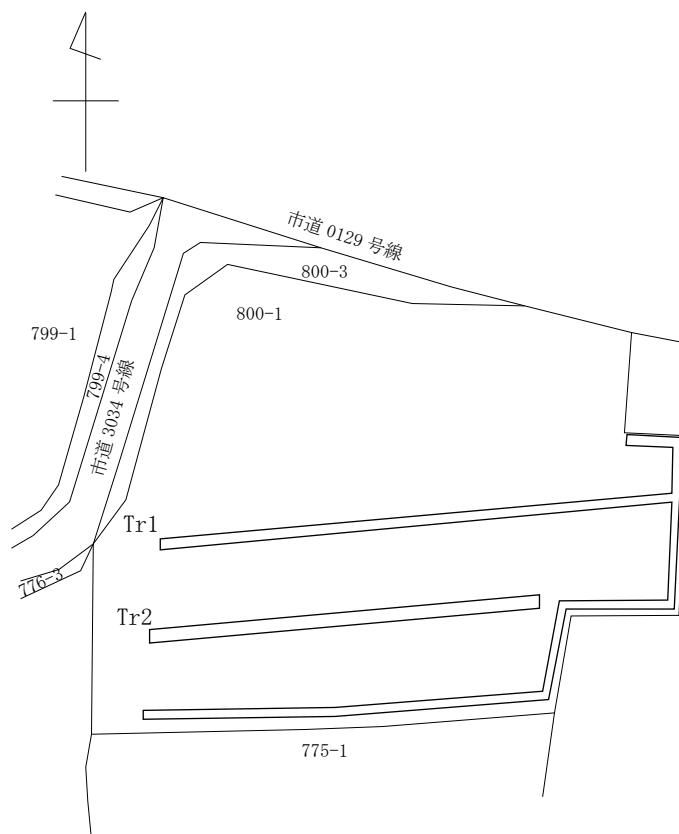
所在地 小諸市大字平原 800-1
事業概要 太陽光発電設備設置
開発者 Life コーポレーション株式会社
調査期間 平成 30 年 12 月 3 日
調査面積 55.5 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし



位置図 1:10,000

調査所見

幅 50cm、深さ 50cm の浸透側溝を対象に調査を行う。耕作土の堆積が 30cm から 50cm あり、その下が浅間軽石流となる。本層上面及び断面で遺構の確認を行ったが認められなかった。



全体図 1:500



調査区南東



パネル前の浸透側溝

試掘調査

舟窪遺跡

所在地 小諸市大字御影新田 1768-4 ほか

事業概要 下水道管布設

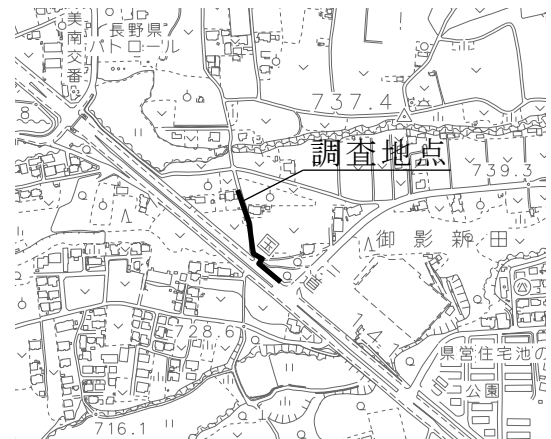
開発者 小諸市

調査期間 平成30年11月22日、12月13日

調査面積 31 m²

検出遺構 竪穴住居址1軒、土坑1基

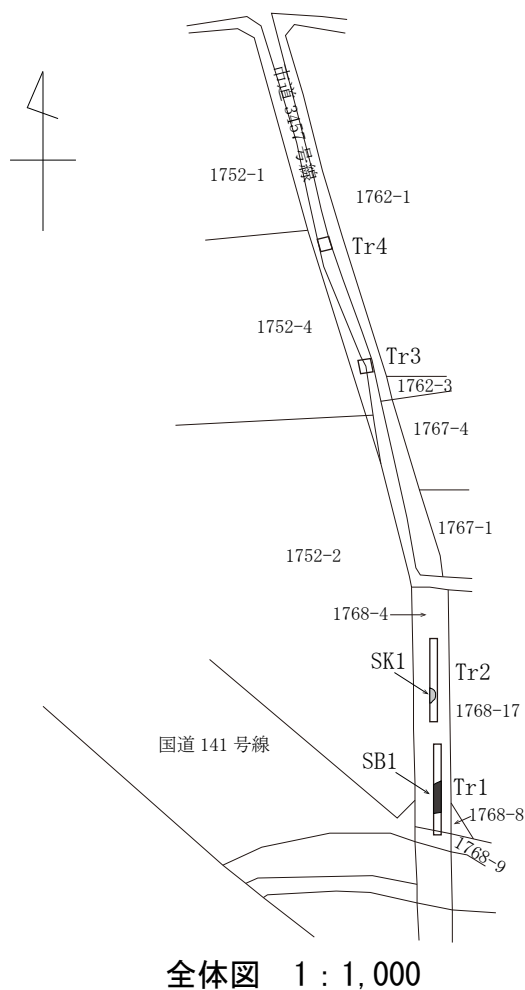
出土遺物 なし



位置図 1:10,000

調査所見

下水道管布設工事に伴う試掘調査。既設のアスファルト舗装と路盤を除去したところ、トレンチ1で竪穴住居址が1軒、トレンチ2で土坑が1基確認された。トレンチ2より北側については計画路線上に既設の上水道管があるので、トレンチ3、4を設定し、既設管の位置と破壊される遺構の有無を判断したところ、計画路線の中心に水道管が発見され、遺構は破壊されていると判断した。



全体図 1:1,000



手前トレンチ2、奥トレンチ1（北より）



トレンチ1検出、住居址プラン

試掘調査

深沢遺跡群

所在地 小諸市大字滋野甲 64-3

事業概要 太陽光発電設備設置

開発者 竹花工業株式会社

調査期間 平成 31 年 2 月 25 日

調査面積 30 m²

検出遺構 なし

出土遺物 なし

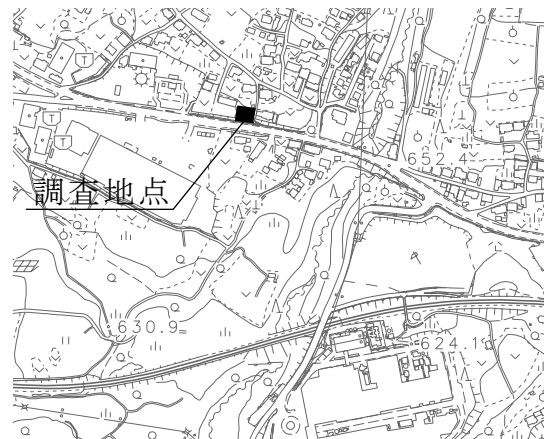
調査所見

太陽光発電設備に付属する浸透側溝を対象に試掘調査を実施する。

現況地表面より 50cm の深さまで掘削したところで計画地盤に到達。客土と思われる暗褐色土中で掘削は終了。場所によっては、わずかに径 8 cm ~ 10cm 大の礫が混じる地山に到達した。計画地盤及び断面で遺構の検出作業を実施したが、遺構は確認できなかった。また、遺物も発見できなかった。



全体図 1 : 500



位置図 1:10,000



トレンチ 1 (東より)



トレンチ 2 (東より)



トレンチ 3 (西より)

試掘調査

谷地原遺跡群①

所在地 小諸市大字御影新田 2323-1、2323-9

事業概要 事務所建設

開発者 株式会社矢島

調査期間 平成 30 年 5 月 9 日

調査面積 66.5 m²

検出遺構 なし

出土遺物 なし

調査所見

本調査区における基本層序は次のとおり。

I 層：黒褐色（10YR2/3）。耕作土。

II 層：暗褐色（10YR3/4）。黒褐色土ブロック（10YR2/3）、2 cm ～ 3 cm の軽石が混じる。

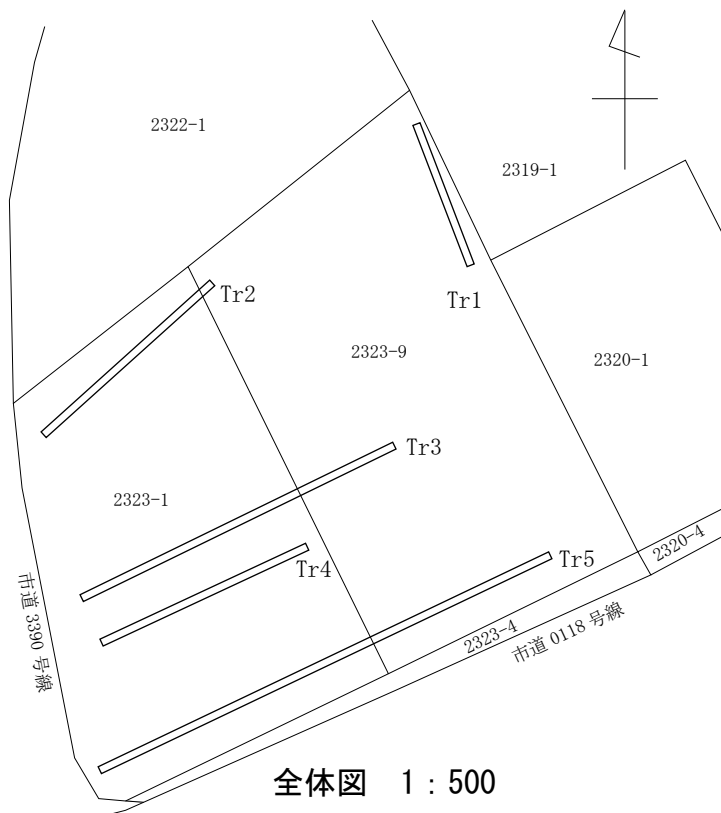
III 層：浅間第 1 軽石流層。

遺構確認はIII層頂部で実施した。確認面までの深さは西側が現況 GL より 70cm 程度、東側が 50cm 程度で、西から東に向けて浅くなっている。

過去に建設会社のプラントであった履歴があり、あちこちに廃材等を埋めた攪乱が確認された。



位置図 1:10,000



全体図 1:500



トレンチ 2 (東より)



トレンチ 4 (東より)

試掘調査

谷地原遺跡群②

所在地 小諸市大字御影新田 2505-1

事業概要 太陽光発電設備設置

開発者 千曲電業株式会社

調査期間 平成30年5月28日

調査面積 32 m²

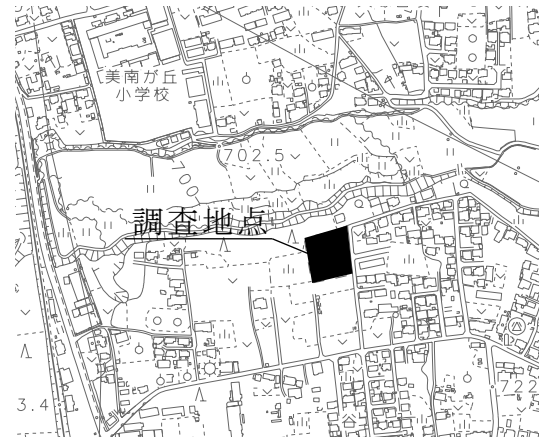
検出遺構 なし

出土遺物 須恵器甕破片1点（奈良時代）

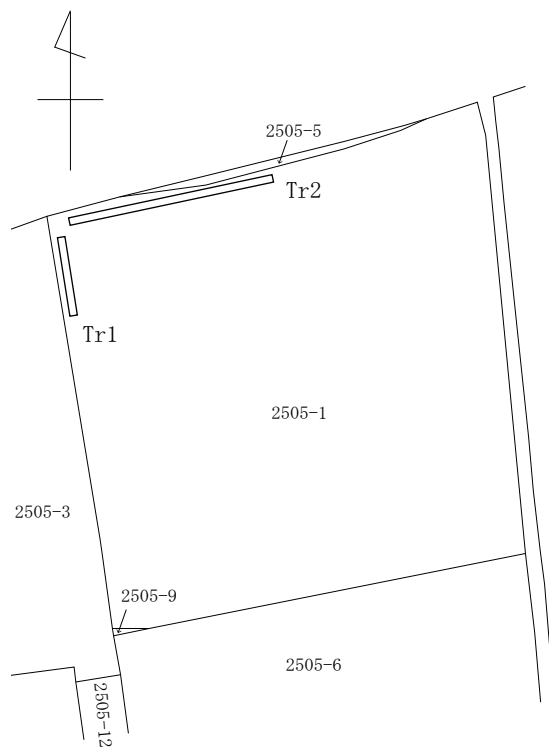
調査所見

太陽光発電設備のための浸透側溝を対象に試掘調査を実施する。重機を用いてトレンチを2本掘り下げた。

20cm程度の耕作土の下に黒褐色土層があり本層から須恵器甕破片が1点出土した。遺構確認面は現況地表面より60cm下で検出された浅間軽石流堆積層の上面に設定し、確認作業を実施する。遺構と思われる場所はサブトレンチを入れてみたが、単なる落ち込みであったり、樹木の根による攪乱であったりと、遺構は確認できなかった。



位置図 1:10,000



全体図 1:1,000



調査トレンチ全景（南西より）



トレンチ1（南より）

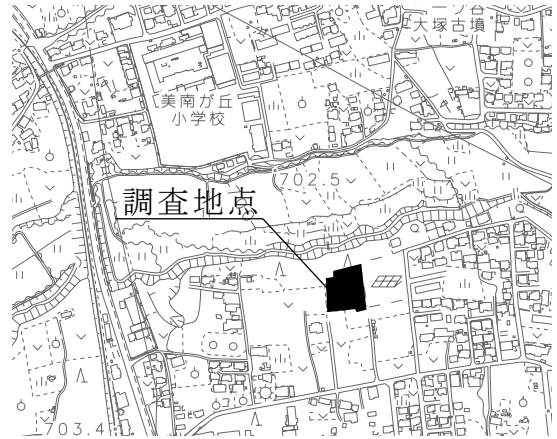


トレンチ2（東より）

試掘調査

谷地原遺跡群③

- 所在地 小諸市大字御影新田 2505-3
- 事業概要 宅地造成
- 開発者 有限会社あさひ不動産
- 調査期間 平成 30 年 11 月 26 日～ 11 月 28 日
- 調査面積 288 m²
- 検出遺構 なし
- 出土遺物 なし
- 調査所見



位置図 1:10,000

北傾斜の地形で、田切の谷が北 30m まで迫っている立地である。調査区に 15 本のトレンチを設定し、重機により掘り下げた。耕作土下に黒褐色土の堆積があり、その下、褐色土を挟んで遺構確認面に設定した浅間軽石流堆積層に至る。軽石流の検出深度は現況 GL より平均 25cm ほどで、北側が浅い傾向である。遺物も一切なく、遺構は確認できなかった。



全体図 1:1,000



調査区北東付近（東より）



調査区南付近（西より）



調査区東付近（南より）

試掘調査

谷地原遺跡群④

所在地 小諸市大字御影新田 2505-3 付近
市道 3374 号線、3387 号線

事業概要 宅地開発インフラ整備

開発者 小諸市

調査期間 平成 30 年 12 月 12 日～12 月 13 日

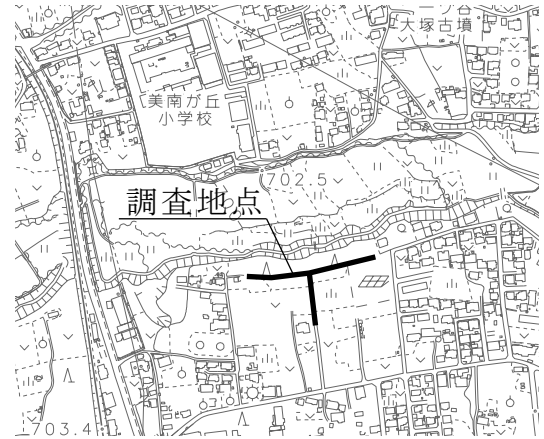
調査面積 88 m²

検出遺構 なし

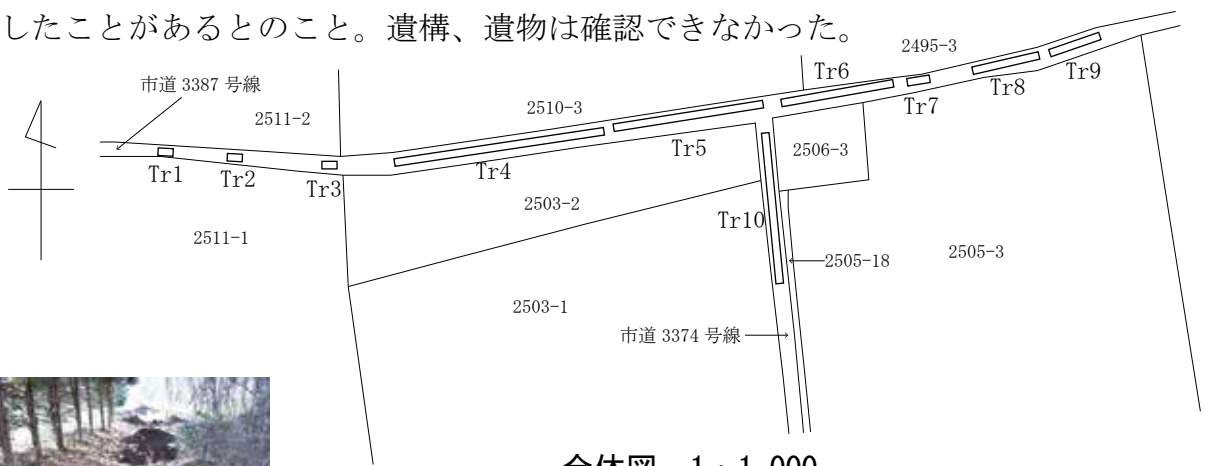
出土遺物 なし

調査所見

調査地点は台地の縁辺部にあたり、皿掛川が形成した深い田切の谷が北方 30m先に迫っている。全体的に北傾斜の地形で、集落を形成するには難がある場所ではある。調査区に 9 本のトレンチを設定し、重機により掘り下げた。耕作土下に黒褐色土の堆積があり、その下、褐色土を挟んで遺構確認面に設定した浅間軽石流堆積層に至る。軽石流の検出深度は現況 GL より 40cm～50cm ほどである。トレンチ 1～3 では上層に円礫が集積するシルト質の土層が観察できたが、地元の方の話では、昔、道として造成したことがあるとのこと。遺構、遺物は確認できなかった。



位置図 1:10,000



全体図 1:1,000



トレンチ 1、2、3
(トレンチ 3 東より)



トレンチ 5 (西より)



トレンチ 7、8、9
(トレンチ 9 東より)

試掘調査

谷地原遺跡群⑤

所在地 小諸市大字御影新田 2497-9
事業概要 宅地造成
開発者 株式会社ネココーポレーション
調査期間 平成 31 年 2 月 4 日
調査面積 28 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査所見

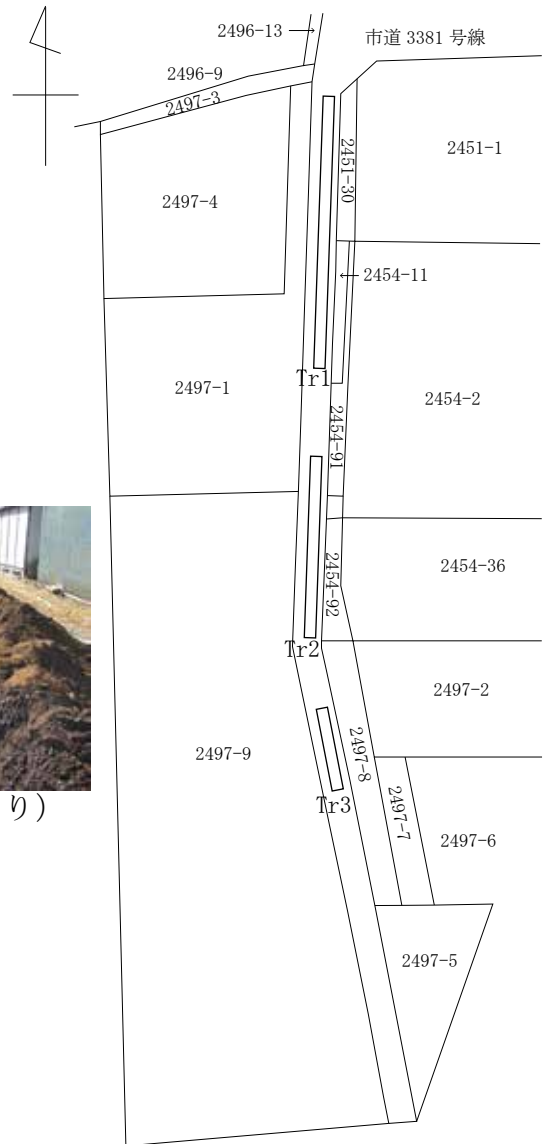


位置図 1:10,000

分譲地の造成及び取り付け道路工事が計画される。宅地分譲部分は盛土により工事が行われるため、道路部分を調査対象とした。

道路工事部分は既に道型が出来上がっており上下水道管が敷設されているため、そこを避けてトレンチを3本設定した。

クラッシャーによる簡易舗装の下に耕作土があり、その下に浅間軽石流堆積層がある。現況GLより本層まで50cm～60cmあり、この頂部を遺構確認面とした。樹根の攪乱は認められたが人為的な掘り込みは認められなかった。



全体図 1:500



トレンチ 1 (南より)



トレンチ 2 (北より)



トレンチ 3 (南より)

試掘調査

和田原遺跡群

所在地 小諸市大字御影新田 2721-1
事業概要 事務所建設
開発者 合同会社WR
調査期間 平成30年10月17日～10月18日
調査面積 212 m²
検出遺構 住居址2軒
出土遺物 なし



位置図 1:10,000

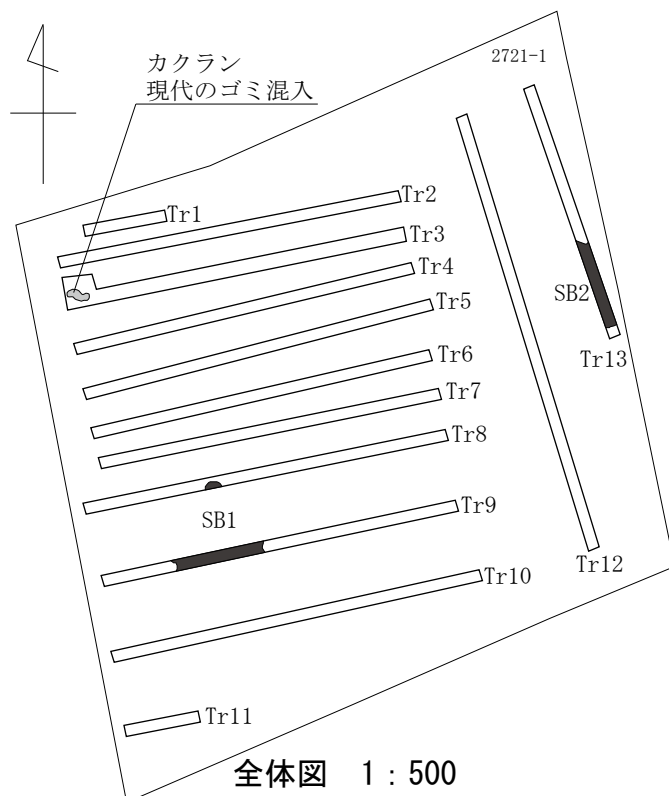
調査所見

調査契機は貸事務所建設及び駐車場整備である。貸事務所の建設にあたり、現況 GL より 4 m 下まで表層改良が実施される。駐車場は現況 GL より 20cm 掘削し、施工される。

開発予定区域に 13 本のトレンチを設定し、重機により掘削作業を実施する。

基本層序は上から、I 層：耕作土層、II 層：黒色土層、III 層：黒褐色土層、IV 層：暗褐色土層、V 層：浅間軽石流堆積層の順に堆積している。遺構確認は V 層頂部で行った。遺構確認面までの深さは、敷地北側面で現況 GL より 50cm ～ 60cm 程度、南にいくほど深くなり、70cm から 80cm を測る。

遺構は 2 軒の住居址を確認した。トレンチ 8、9 で確認された住居址は現況 GL より 66cm、トレンチ 13 で確認された住居址は 52cm の位置にある。2 軒ともカマドが付随しており、本遺跡におけるこれまでの調査履歴から古墳時代後期の住居址と考えられる。



全体図 1:500

0	I	I 層 耕作土。
	II	II 層 黒色土 (7.5YR2/1)。 5mm 大パミス 3% 混入。 しまり良い。 粘性あり。
	III	III 層 黒褐色土 (7.5YR2/2)。
50	IV	IV 層 極暗褐色ブロック (7.5YR2/3) 3%、黒色土ブ ロック (7.5YR2/1)、5mm 大 パミス含む。 しまりはあるが、II 層よりは しまらない。
	V	V 層 浅間軽石流堆積層。
100 cm		



全景（北東より）



トレンチ 9 検出住居址



トレンチ 13 検出住居址



トレンチ 9 断面

試掘調査

東丸山遺跡

所在地 小諸市大字菱平 88-7、93-10

事業概要 太陽光発電設備設置

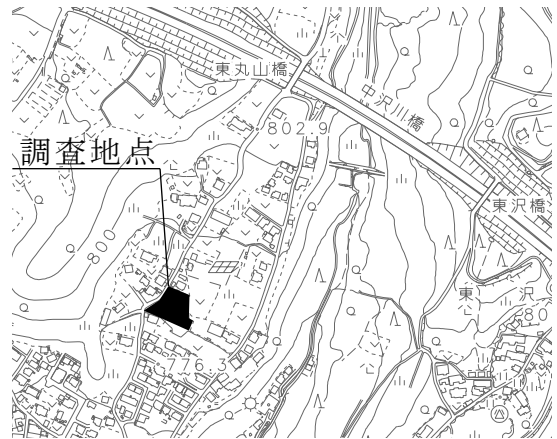
開発者 株式会社クラカンエコライフ

調査期間 平成 30 年 9 月 26 日

調査面積 24 m²

検出遺構 なし

出土遺物 なし

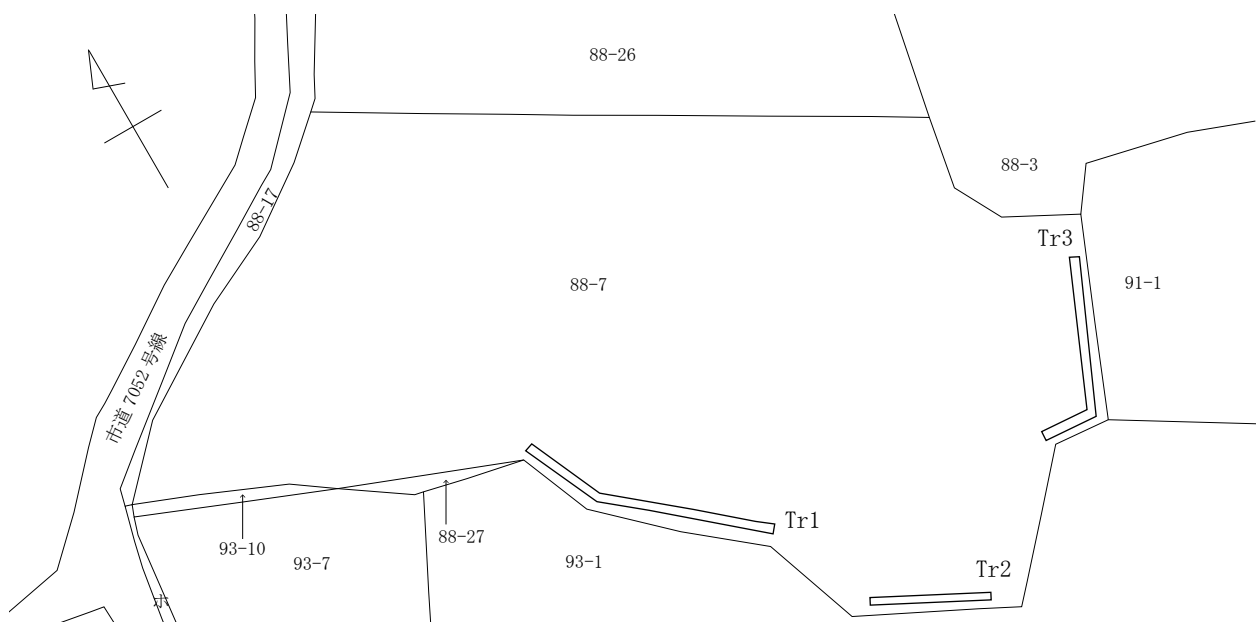


位置図 1:10,000

調査所見

太陽光発電設備に付属する浸透側溝を対象に試掘調査を実施する。

計画地盤は現況地表面より 50cm 程度のところで、耕作土内である。計画地盤で遺構の検出作業を実施したが、遺構は確認できなかった。また、遺物も発見できなかった。もとは雑林で樹木による攪乱が著しい。



全体図 1:500



トレンチ1 (西より)

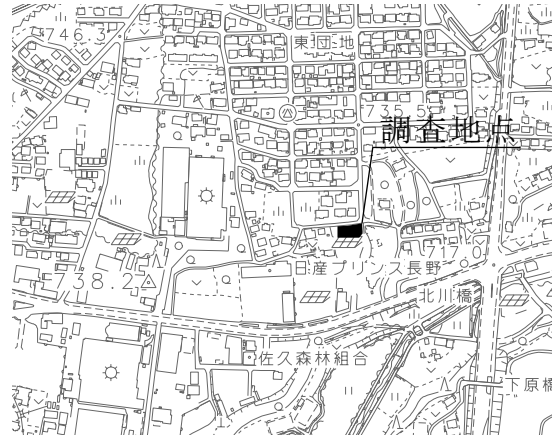


トレンチ2 (東より)

試掘調査

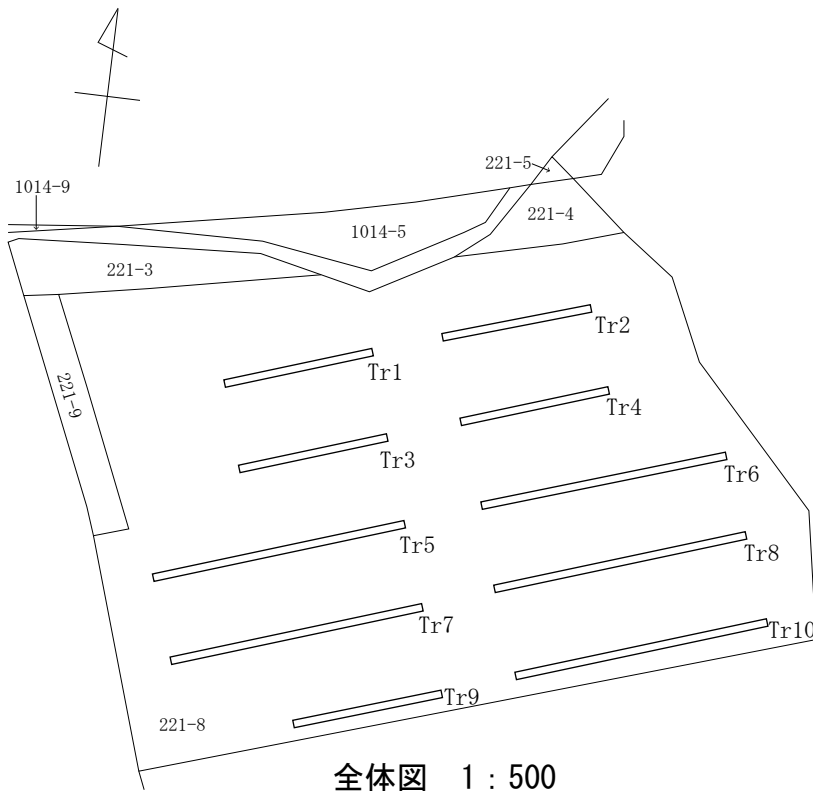
柏木原遺跡群①

所在地 小諸市大字柏木 221-8
事業概要 太陽光発電設備設置
開発者 合同会社サニーワン
調査期間 平成30年7月9日～7月12日
調査面積 79.8 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし
調査所見



位置図 1:10,000

太陽光発電設備に付属する浸透側溝を対象に試掘調査を実施する。掘削計画地盤は現況地表面より35cm程度で、計画地盤で遺構の検出作業を実施したが、確認できなかった。また、遺物も発見できなかった。調査区北側は計画地盤で浅間軽石流堆積層に到達したが、南側は暗褐色の表土の堆積が厚く、軽石流層に達しなかった。



全体図 1:500



トレンチ3、4付近 (西より)



トレンチ5、6付近 (西より)

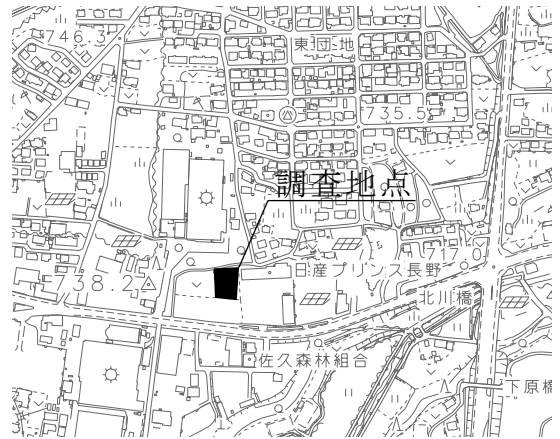


トレンチ9、10付近 (東より)

試掘調査

柏木原遺跡群②

所在地 小諸市大字平原 1002-1
事業概要 太陽光発電設備設置
開発者 株式会社フラクタル・ビジネス
調査期間 平成30年10月19日
調査面積 21 m²
検出遺構 なし
出土遺物 なし

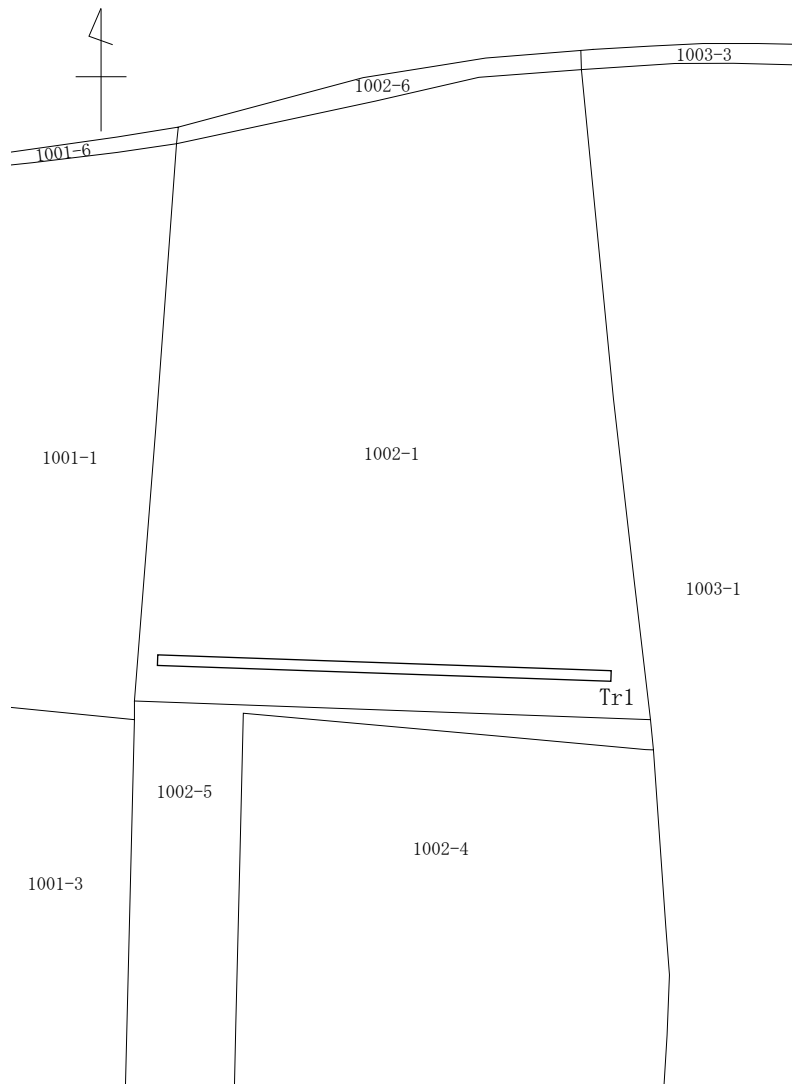


位置図 1:10,000

調査所見

太陽光発電設備に付属する浸透側溝を対象に試掘調査を実施する。

計画地盤は現況地表面より 50cm 程度のところで、耕作土内である。計画地盤で遺構の検出作業を実施したが、遺構は確認できなかった。また、遺物も発見できなかった。



全体図 1:500



トレンチ1 (西より)

報告書抄録

ふりがな	しないいせき
書名	市内遺跡 2018
副書名	平成 30 年度小諸市内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	小諸市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	42
編著者名	高橋陽一、井出勇介
編集機関	小諸市教育委員会
所在地	小諸市相生町三丁目 3 番 3 号
発行年月日	2023 年 3 月 17 日

小諸市埋蔵文化財調査報告書第 42 集
市内遺跡 2018 平成 30 年度小諸市内遺跡発掘調査報告書

発行日 2023 年 3 月 17 日
編集・発行 小諸市教育委員会
〒384-8501 長野県小諸市相生町三丁目 3 番 3 号
TEL : 0267-22-1700 (代表) FAX : 0267-23-8857
発行所 ヨダ印刷サービス株式会社
〒384-0026 長野県小諸市本町二丁目 1 番 4 号
TEL : 0267-22-3330 FAX : 0267-22-3331
